



SANIX

2009年3月期 第3四半期 連結決算説明会

株式
会社 **サニックス**

2009年2月9日

(注) 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。

目 次

1. 2009年3月期 第3四半期の概況 P. 1

2. 2009年3月期 連結業績見通し P. 10

免責事項

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報に基づく判断に基づくものです。従いまして、将来時点における実際の収益及び業績は、こうした将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

以下の要因により、将来時点における当社の業績は、本資料内の将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、日本のサービス業の業績動向、他のサービス業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の弊社の予測を超える様々な要因

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。



株式会社 **サニックス**

2009年3月期 第3四半期の概況

第3四半期：決算概況

第3四半期累計実績は、前期比、計画比ともに減収減益。

売上高	： 19,403百万円	（計画比4.6%減）
営業利益	： △502百万円	（計画差異 △365百万円）
経常利益	： △524百万円	（計画差異 △359百万円）
四半期純利益	： △886百万円	（計画差異 △330百万円）

- ◆HS事業部門は、高単価商品である「基礎補修・補強工事」の販売低迷により、計画比減収となった。
- ◆ES事業部門は、不動産・建設業界の混乱の影響を受け、新規顧客対象商品の販売が低迷し、計画比減収となった。
- ◆環境資源開発事業部門
 - 【売電収入】 製造業を中心に悪化する景況を背景に、著しく電力需要が縮小したため、年末にかけて上昇すると見込んだ売電単価が下落し、計画比減収となった。
 - 【廃プラ加工処理】 搬入単価下落を搬入量拡大で補うべく人員補強並びに設備投資を実施。搬入量は前期比ではプラスとなったものの、計画水準までには至らず、減収となった。
 - 【有機廃液処理】 景気悪化に伴う排出元企業の減産等の影響により、計画比減収となった。

第3四半期：連結損益の実績と計画差異

(単位:百万円)

連 結	2008/3期		2009/3期					
	第3四半期		第3四半期累計					
	実績値	売上比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
売 上 高	20,129	100.0%	19,403	100.0%	96.4%	20,329	95.4%	△ 926
(HS部門)	11,855	58.9%	11,255	58.0%	94.9%	11,638	96.7%	△ 382
(ES部門)	2,579	12.8%	2,352	12.1%	91.2%	2,534	92.8%	△ 181
(環境資源)	5,694	28.3%	5,795	29.9%	101.8%	6,157	94.1%	△ 362
売 上 原 価	11,303	56.2%	11,346	58.5%	100.4%	11,574	98.0%	△ 228
売 上 総 利 益	8,826	43.8%	8,056	41.5%	91.3%	8,755	92.0%	△ 698
販 管 費	8,435	41.9%	8,559	44.1%	101.5%	8,892	96.3%	△ 333
営 業 利 益	390	1.9%	△ 502	—	—	△ 137	—	△ 365
経 常 利 益	301	1.5%	△ 524	—	—	△ 164	—	△ 359
当 期 純 利 益	△ 408	—	△ 886	—	—	△ 556	—	△ 330

■ 第3四半期累計の売上高は、各事業部門ともに計画比減収。また、環境資源開発事業部門における計画比減収並びに搬入量拡大を見据えた人員増強により固定費が増加。経常損失は524百万円(計画比△359百万円)となった。

SANIX 2

第3四半期：連結四半期損益の実績と計画差異

(単位:百万円)

連 結	2009/3期							
	第1四半期(4月～6月)		第2四半期(7月～9月)		第3四半期(10月～12月)			
	実績値	前期比増減額	実績値	前期比増減額	実績値	計画値	計画比	計画差異
売 上 高	6,583	△ 262	6,828	△ 68	5,990	6,917	86.6%	△ 926
(HS部門)	3,908	△ 369	4,067	57	3,279	3,662	89.5%	△ 382
(ES部門)	792	△ 68	881	△ 55	678	860	78.9%	△ 181
(環境資源)	1,883	175	1,879	△ 70	2,033	2,395	84.9%	△ 362
売 上 原 価	3,595	△ 32	4,161	71	3,589	3,817	94.0%	△ 228
売 上 総 利 益	2,987	△ 229	2,667	△ 139	2,401	3,099	77.5%	△ 698
販 管 費	3,110	223	2,895	29	2,552	2,885	88.5%	△ 333
営 業 利 益	△ 122	△ 453	△ 228	△ 168	△ 150	214	—	△ 365
経 常 利 益	△ 124	△ 425	△ 243	△ 174	△ 156	203	—	△ 359
当 期 純 利 益	△ 143	△ 295	△ 594	△ 20	△ 148	181	—	△ 330

SANIX 3

第3四半期：セグメント別損益の実績と計画差異

(単位：百万円)

連 結		2008/3期		2009/3期					
		第3四半期		第3四半期累計					
		実績値	売上比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売上高	11,855	100.0%	11,255	100.0%	94.9%	11,638	96.7%	△ 382
	売上総利益	7,960	67.1%	7,540	67.0%	94.7%	7,823	96.4%	△ 282
	販管費	4,864	41.0%	4,948	44.0%	101.7%	5,182	95.5%	△ 233
	営業利益	3,095	26.1%	2,592	23.0%	83.8%	2,641	98.2%	△ 48
ES 部門	売上高	2,579	100.0%	2,352	100.0%	91.2%	2,534	92.8%	△ 181
	売上総利益	968	37.5%	866	36.8%	89.5%	946	91.6%	△ 79
	販管費	1,098	42.6%	927	39.4%	84.4%	962	96.4%	△ 34
	営業利益	△ 130	—	△ 60	—	—	△ 15	—	△ 44
環境 資源	売上高	5,694	100.0%	5,795	100.0%	101.8%	6,157	94.1%	△ 362
	売上総利益	△ 101	—	△ 350	—	—	△ 14	—	△ 336
	販管費	879	15.4%	1,016	17.5%	115.6%	1,004	101.2%	12
	営業利益	△ 981	—	△ 1,367	—	—	△ 1,018	—	△ 348
配賦 不能	営業利益	△ 1,592	—	△ 1,666	—	—	△ 1,743	—	76

SANIX 4

第3四半期：セグメント別四半期損益の実績と計画差異

(単位：百万円)

連 結		2009/3期							
		第1四半期(4月～6月)		第2四半期(7月～9月)		第3四半期(10月～12月)			
		実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売上高	3,908	91.4%	4,067	101.4%	3,279	3,662	89.5%	△ 382
	売上総利益	2,649	92.7%	2,746	101.5%	2,144	2,427	88.4%	△ 282
	販管費	1,833	110.6%	1,689	100.8%	1,425	1,659	85.9%	△ 233
	営業利益	816	67.9%	1,057	102.6%	718	767	93.7%	△ 48
ES 部門	売上高	792	92.1%	881	94.0%	678	860	78.9%	△ 181
	売上総利益	307	91.9%	325	91.1%	232	312	74.5%	△ 79
	販管費	316	83.6%	324	87.4%	286	320	89.2%	△ 34
	営業利益	△ 8	—	1	—	△ 53	△ 8	—	△ 44
環境 資源	売上高	1,883	110.3%	1,879	96.4%	2,033	2,395	84.9%	△ 362
	売上総利益	30	130.8%	△ 405	—	24	360	6.7%	△ 336
	販管費	334	113.7%	335	111.8%	345	333	103.7%	12
	営業利益	△ 304	—	△ 741	—	△ 321	26	—	△ 348
配賦 不能	営業利益	△ 626	—	△ 545	—	△ 494	△ 571	—	76

SANIX 5

第3四半期：HS事業部門ハイライト

HS事業部門

■個人消費の落ち込みにより、計画比減収

当第3四半期累計期間は、個人消費の落ち込みにより各商品ともに計画比減収となった。特に、高単価商品である「基礎補修・補強工事」が計画比4.5%減となり、全体の売上高は11,255百万円(計画比3.3%減)となった。

利益面では、春以降の新規顧客獲得に備え、人員補強を実施したものの、販管費を中心としたコスト削減が進んだ結果、営業利益2,592百万円(計画比1.8%減)となった。また、売上高対営業利益率は23.0%(計画値は22.7%)となった。

■商品別売上高・営業利益

(単位:百万円)

連 結	2008/3期	2009/3期				
	第3四半期	第3四半期累計期間				
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
白 蟻 防 除 施 工	3,920	4,102	104.7%	4,241	96.7%	△ 138
基 礎 補 修 ・ 補 強 工 事	5,109	3,430	67.1%	3,590	95.5%	△ 159
床 下 ・ 天 井 裏 換 気 シ ス テ ム	1,509	1,876	124.3%	1,907	98.4%	△ 30
家 屋 補 強 シ ス テ ム	271	288	106.0%	299	96.1%	△ 11
そ の 他	1,044	1,556	149.1%	1,598	97.4%	△ 41
売 上 高 合 計	11,855	11,255	94.9%	11,638	96.7%	△ 382
営 業 利 益	3,095	2,592	83.8%	2,641	98.2%	△ 48

SANIX 6

第3四半期：ES事業部門ハイライト

ES事業部門

■金融危機に伴う不動産・建設業界の混乱により計画比減収

当第3四半期累計期間は、引き続き不動産管理会社等へ積極的に営業展開し、法人営業体制の確立に注力したものの、金融危機に伴う不動産・建設業界の混乱による影響は避けられず、売上高は2,352百万円(計画比7.2%減)となった。

利益面では、合理化を推進し販管費を中心にコスト削減が進んだものの、減収による収益の悪化により、営業損失は60百万円(計画は15百万円の営業損失)となった。

■商品別売上高・営業利益

(単位:百万円)

連 結	2008/3期	2009/3期				
	第3四半期	第3四半期累計期間				
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
防 錆 機 器 取 付 施 工	594	523	88.0%	601	87.0%	△ 77
建 物 給 排 水 補 修 施 工	761	702	92.2%	744	94.3%	△ 42
建 物 防 水 塗 装 補 修 施 工	478	442	92.5%	494	89.5%	△ 51
そ の 他	745	684	91.8%	694	98.6%	△ 9
売 上 高 合 計	2,579	2,352	91.2%	2,534	92.8%	△ 181
営 業 利 益	△ 130	△ 60	—	△ 15	—	△ 44

※ES事業部門における「活水器取付施工」は、2008年3月期より「防錆機器取付施工」に名称を変更。

SANIX 7

第3四半期：環境資源開発事業部門ハイライト

環境資源開発事業部門

■ 景気悪化に伴う製造業の減産や同業他社との価格競争激化により、計画比減収。

当第3四半期累計期間の売電収入は、電力需要悪化に伴う売電単価の下落等により、計画比減収。廃プラ加工処理においては、受入単価下落を受入量でカバーするため、人員補強を実施。この結果、受入量は順調に推移したものの、計画水準までには至らず、計画比減収となった。また、有機廃液処理においては景気悪化に伴う排出元企業の減産等の影響により、搬入量が計画未達となり、売上高は5,795百万円(計画比5.9%減)となった。

利益面では、人員補強に伴う固定費増加等の影響により、1,367百万円の営業損失となった。

■ 商品別売上高・営業利益

(単位:百万円)

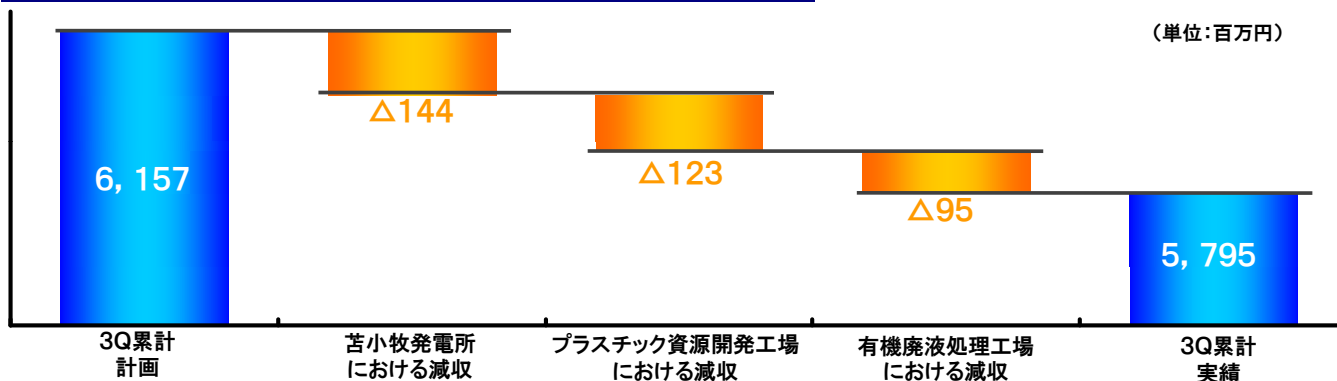
連 結	2008/3期	2009/3期				
	第3四半期	第3四半期累計期間				
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
廃プラ加工処理	2,845	2,795	98.3%	2,865	97.6%	△ 69
有機廃液処理	1,429	1,459	102.1%	1,555	93.9%	△ 95
売電収入	493	1,077	218.4%	1,221	88.2%	△ 143
焼却処理	619	—	—	—	—	—
その他	307	463	150.6%	515	89.7%	△ 52
売上高合計	5,694	5,795	101.8%	6,157	94.1%	△ 362
営業利益	△ 981	△ 1,367	—	△ 1,018	—	△ 348

SANIX 8

第3四半期：環境資源開発事業部門ハイライト

環境資源開発事業部門の計画比減収要因

(単位:百万円)



< 苦小牧発電所における減収 >

- ◆ 売電単価の下落による減収(影響額約72百万円)。
- ◆ 小規模トラブル発生に伴う、販売電力量の計画未達による減収(影響額約72百万円)。

< プラスチック資源開発工場における減収 >

- ◆ 搬入量の計画未達による減収(影響額80百万円)
- ◆ 中国向けの輸出がストップするなど、マテリアルリサイクルの取引価格暴落による減収(影響額37百万円)。
- ◆ その他売上の計画未達(影響額6百万円)。

< 有機廃液処理工場における減収 >

- ◆ 搬入量の計画未達による減収(影響額95百万円)。

SANIX 9

SANIX

株式会社 **サニックス**

2009年3月期 連結業績見通し

2009年3月期：業績予想の修正について

通期業績見通し

■当第3四半期会計期間における景気低迷の影響が当第4四半期会計期間以降も続くことが予想されるため、通期業績予想を修正。

【通期予想】	売上高	： 25,640百万円	（計画差異	△2,360百万円）
	営業利益	： △450百万円	（計画差異	△1,080百万円）
	経常利益	： △480百万円	（計画差異	△1,080百万円）
	当期純利益	： △920百万円	（計画差異	△1,070百万円）

◆◇セグメント別 事業方針◇◆

【HS事業部門】⇒減収による収益の悪化を補うため、更なるコスト削減に注力し、高利益率の維持に努める。

【ES事業部門】⇒店舗統廃合などの合理化により固定費を低減し、収益性の改善に努める。

【環境資源開発事業部門】⇒プラスチック資源開発工場は、引き続き搬入量の拡大に努める。

苦小牧発電所は、連続安定運転に成果が得られたため、売電単価下落による減収を補うべく、次ステップとして高出力連続安定運転へシフトする。

有機廃液処理工場は、現状の売上水準で利益を生み出す体制を整える。

2009年3月期：連結業績見通し

(単位:百万円)

連 結	2009年3月期								
	3Q累計	第4四半期(1月~3月)				通 期			
	実績値	修正 計画値	前期比	10/31 計画値	差異	修正 計画値	前期比	10/31 計画値	差異
売 上 高	19,403	6,236	97.7%	7,670	△ 1,433	25,640	96.7%	28,000	△ 2,360
(HS部門)	11,255	3,421	89.2%	4,116	△ 694	14,677	93.5%	15,754	△ 1,077
(ES部門)	2,352	592	77.8%	940	△ 348	2,944	88.1%	3,474	△ 529
(環境資源)	5,795	2,223	124.6%	2,613	△ 390	8,018	107.2%	8,771	△ 752
売 上 原 価	11,346	3,572	102.1%	3,945	△ 372	14,918	100.8%	15,520	△ 601
売 上 総 利 益	8,056	2,664	92.4%	3,725	△ 1,060	10,721	91.6%	12,480	△ 1,759
販 管 費	8,559	2,612	97.5%	2,958	△ 345	11,171	100.5%	11,850	△ 679
営 業 利 益	△ 502	52	25.5%	767	△ 714	△ 450	—	630	△ 1,080
経 常 利 益	△ 524	44	22.9%	764	△ 720	△ 480	—	600	△ 1,080
当 期 純 利 益	△ 886	△ 33	—	706	△ 739	△ 920	—	150	△ 1,070

■当第3四半期会計期間において、消費者の節約志向の高まりや企業の業績低迷による契約の先送りなど、需要の減速が予想以上に進行している状況を踏まえ、売上高を下方修正した。

利益面では、生産性の向上やコスト削減による経営の合理化を引き続き推進するものの、売上高の下方修正に伴い、採算性の悪化が予想されるため、同様に下方修正とした。

SANIX 11

2009年3月期：連結四半期業績見通し

(単位:百万円)

連 結	2009年3月期							
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比	修正 計画値	前期比
売 上 高	6,583	96.2%	6,828	99.0%	5,990	93.8%	6,236	97.7%
(HS部門)	3,908	91.4%	4,067	101.4%	3,279	91.9%	3,421	89.2%
(ES部門)	792	92.1%	881	94.0%	678	86.8%	592	77.8%
(環境資源)	1,883	110.3%	1,879	96.4%	2,033	99.8%	2,223	124.6%
売 上 原 価	3,595	99.1%	4,161	101.7%	3,589	100.1%	3,572	102.1%
売 上 総 利 益	2,987	92.9%	2,667	95.0%	2,401	85.7%	2,664	92.4%
販 管 費	3,110	107.7%	2,895	101.0%	2,552	95.2%	2,612	97.5%
営 業 利 益	△ 122	—	△ 228	—	△ 150	—	52	25.5%
経 常 利 益	△ 124	—	△ 243	—	△ 156	—	44	22.9%
当 期 純 利 益	△ 143	—	△ 594	—	△ 148	—	△ 33	—

SANIX 12

2009年3月期：セグメント別業績見通し

(単位:百万円)

連 結		2009年3月期								
		3Q累計	第4四半期				通 期			
			実績値	修正 計画値	前期比	10/31 計画値	差異	修正 計画値	前期比	10/31 計画値
HS 部門	売上高	11,255	3,421	89.2%	4,116	△ 694	14,677	93.5%	15,754	△ 1,077
	売上総利益	7,540	2,218	84.4%	2,844	△ 625	9,759	92.2%	10,667	△ 907
	販管費	4,948	1,412	91.2%	1,702	△ 289	6,361	99.2%	6,884	△ 523
	営業利益	2,592	805	74.5%	1,141	△ 335	3,398	81.4%	3,782	△ 384
ES 部門	売上高	2,352	592	77.8%	940	△ 348	2,944	88.1%	3,474	△ 529
	売上総利益	866	212	85.2%	361	△ 148	1,079	88.6%	1,308	△ 228
	販管費	927	272	84.8%	331	△ 59	1,199	84.5%	1,293	△ 94
	営業利益	△ 60	△ 59	—	29	△ 89	△ 120	—	14	△ 134
環境 資源	売上高	5,795	2,223	124.6%	2,613	△ 390	8,018	107.2%	8,771	△ 752
	売上総利益	△ 350	232	—	519	△ 286	△ 118	—	504	△ 622
	販管費	1,016	388	133.0%	354	33	1,404	119.9%	1,358	45
	営業利益	△ 1,367	△ 155	—	164	△ 320	△ 1,522	—	△ 854	△ 668
配賦 不能	営業利益	△ 1,666	△ 538	—	△ 569	30	△ 2,205	—	△ 2,312	107

SANIX 13

2009年3月期：セグメント別四半期業績見通し

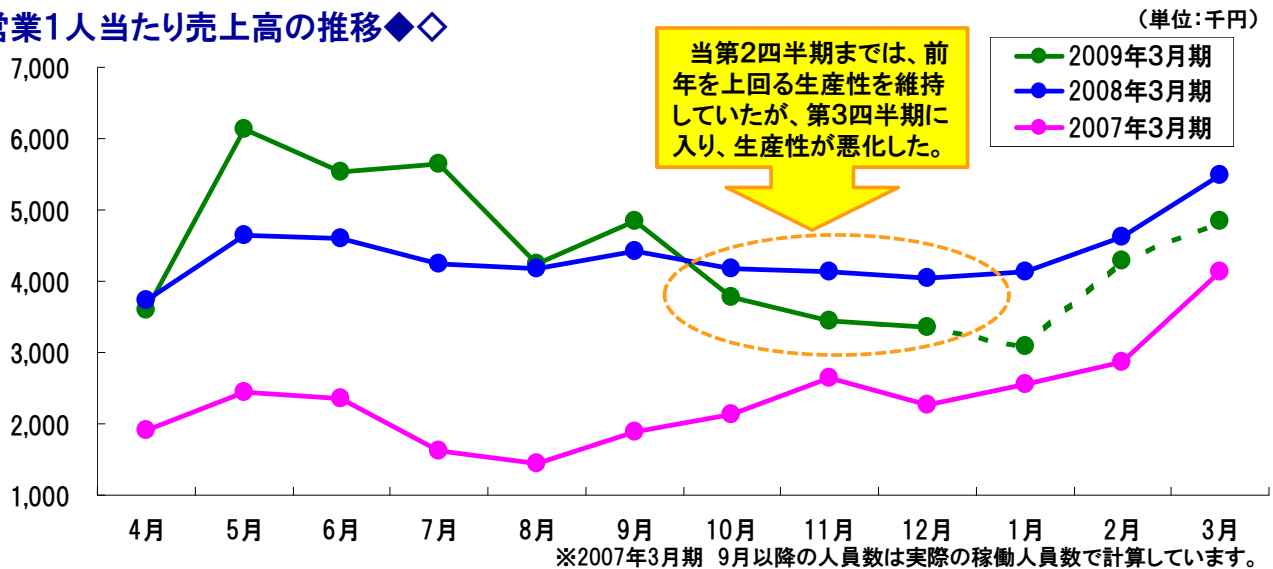
(単位:百万円)

連 結		2009年3月期							
		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比	修正 計画値	前期比
HS 部門	売上高	3,908	91.4%	4,067	101.4%	3,279	91.9%	3,421	89.2%
	売上総利益	2,649	92.7%	2,746	101.5%	2,144	89.5%	2,218	84.4%
	販管費	1,833	110.6%	1,689	100.8%	1,425	93.1%	1,412	91.2%
	営業利益	816	67.9%	1,057	102.6%	718	83.3%	805	74.5%
ES 部門	売上高	792	92.1%	881	94.0%	678	86.8%	592	77.8%
	売上総利益	307	91.9%	325	91.1%	232	84.7%	212	85.2%
	販管費	316	83.6%	324	87.4%	286	82.1%	272	84.8%
	営業利益	△ 8	—	1	—	△ 53	—	△ 59	—
環境 資源	売上高	1,883	110.3%	1,879	96.4%	2,033	99.8%	2,223	124.6%
	売上総利益	30	130.8%	△ 405	—	24	18.3%	232	—
	販管費	334	113.7%	335	111.8%	345	121.4%	388	133.0%
	営業利益	△ 304	—	△ 741	—	△ 321	—	△ 155	—
配賦 不能	営業利益	△ 626	—	△ 545	—	△ 494	—	△ 538	—

SANIX 14

2009年3月期：HS事業部門見通し

◆◇営業1人当たり売上高の推移◆◇



<参考:HS事業部門における営業従事者数の推移>

(単位:人)

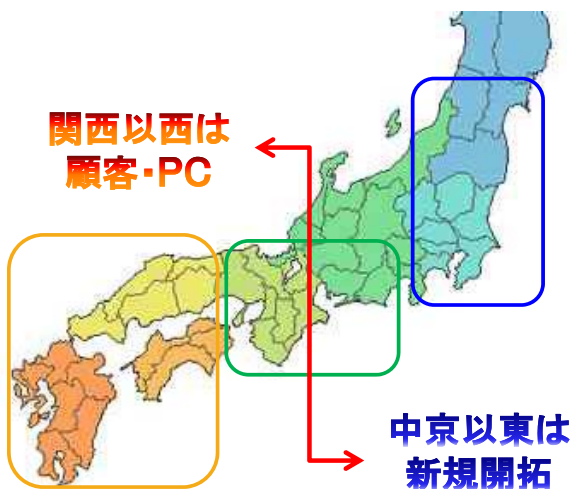
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2009年3月期	270	253	251	262	276	293	309	309	312	297	279	270
2008年3月期	333	335	321	322	316	300	290	289	287	274	268	267
2007年3月期	781	784	786	759	685	526	517	449	423	388	361	352

◆第3四半期に入り景気減退が加速度を増したため、適正人員に戻すことで収益性の改善を図る。

2009年3月期：ES事業部門見通し

◆現在の体制を大幅に刷新。選択と集中により、利益体質への復活を目指す。

◆◇エリア統合及び営業戦略◆◇



関東エリア (統括店舗:虎ノ門事業所)

首都圏は日本最大の市場であるため、新規営業の最前線として位置付け、新規顧客対象の防錆機器販売及び管・水廻り工事に注力する。また、ビル・マンションの管理会社との提携を推進し、中京地区以西への新規受注を展開する。

関西・中京エリア (統括店舗:名古屋事業所)

関西地区は、既存顧客のメンテナンスを行い、中京地区は新規顧客対象の防錆機器販売及び管・水廻り工事に注力する。

九州・中四国エリア (統括店舗:福岡事業所)

利益率の高い定期施工及びPC(ペストコントロール)対象顧客が多いエリアであるため、現状の顧客を維持・管理しつつ、当該商品の拡大に注力する。

関西以西の既存店舗は、極力HS事業部門の店舗に統合し顧客管理を行う。また、関東地区においても採算性を考慮し、営業拠点を縮小する(7店舗⇒2店舗)。今期の業績に与える影響は軽微であるが、これらの統合により、固定費が削減される。

【削減額】:事務所賃借料等の固定費⇒年間約500百万円(来期以降、順次寄与)

2009年3月期：環境資源開発事業部門見通し

- ◆ 廃プラ加工処理収入については、景気低迷により中国向けのマテリアル輸出がストップするなどの状況を受け、マテリアルリサイクルに流れている廃プラスチックの取り込みに注力する。
- ◆ 売電収入は、電力需要悪化に伴う単価下落により、単価下落分を下方修正とした。
- ◆ 有機廃液処理収入については、景気低迷の影響をふまえ、第3四半期実績と同水準とした。

■ 商品別売上高・営業利益

(単位:百万円)

連 結	2009年3月期								
	3Q累計	第4四半期				通期			
	実績値	修正 計画値	前期比	10/31 計画値	差異	修正 計画値	前期比	10/31 計画値	差異
廃プラ加工処理	2,795	1,021	109.5%	1,042	△ 20	3,816	101.0%	3,907	△ 90
有機廃液処理	1,459	450	97.9%	561	△ 110	1,909	101.1%	2,116	△ 206
売 電 収 入	1,077	565	204.9%	814	△ 248	1,643	213.5%	2,036	△ 392
そ の 他	463	185	160.9%	196	△ 10	648	153.4%	711	△ 63
売上高合計	5,795	2,223	124.6%	2,613	△ 390	8,018	107.2%	8,771	△ 752
営 業 利 益	△ 1,367	△ 155	—	164	△ 320	△ 1,522	—	△ 854	△ 668

SANIX 17

2009年3月期：資源循環型発電事業の見通し

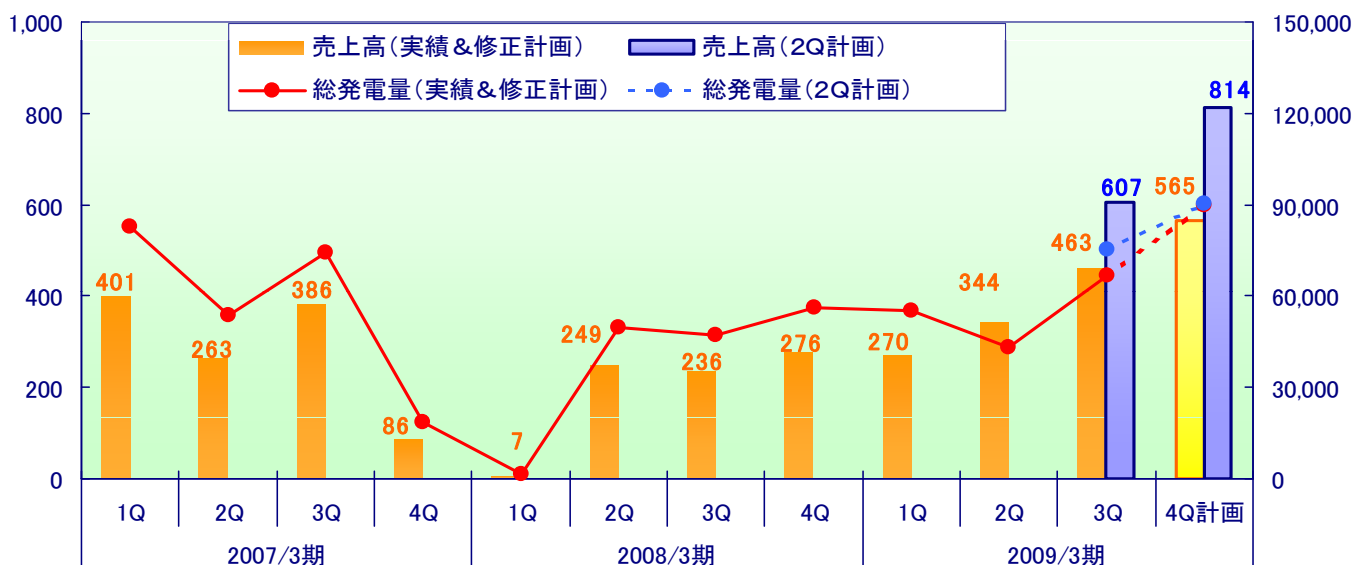
◆ 昨年末までに異物除去システムラインの整備・強化を終え、第4四半期より発電量増加

異物除去システムラインの整備・強化が完了。連続安定運転に必要な前処理設備の燃料供給体制は整ったため、当第4四半期にはボイラーへの燃料供給量増加及び高出力連続安定運転を図る。

■ 苫小牧発電所の売上高・総発電量の四半期推移

(売上高:百万円)

(総発電量:MWh)



SANIX 18

2009年3月期：資源循環型発電事業の設備投資概要

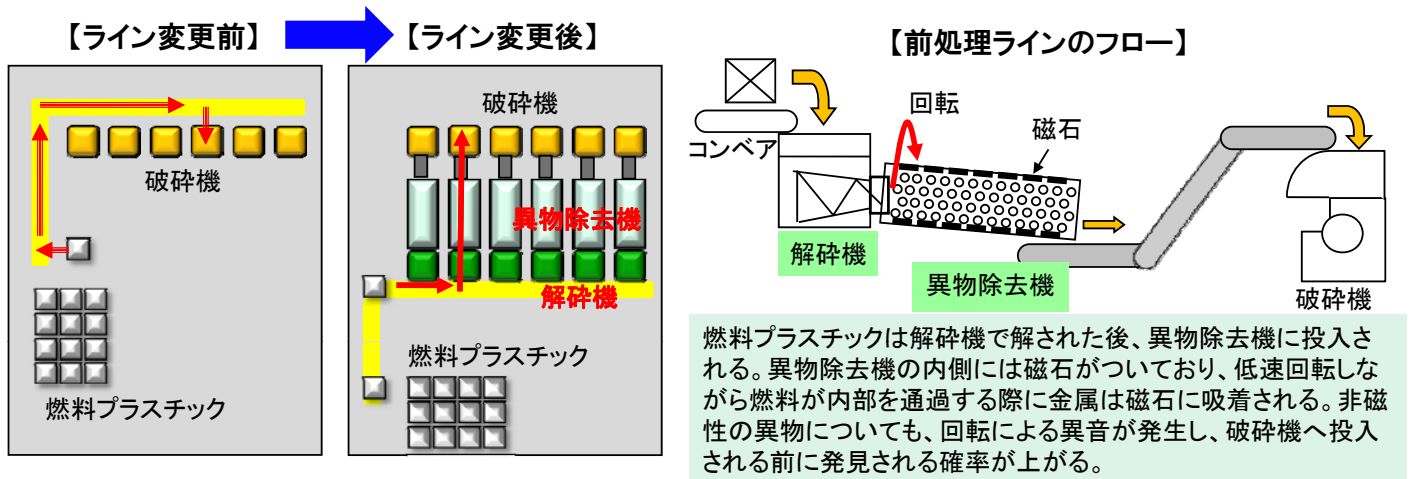
◆異物除去システムラインの導入が昨年末に完了

前処理ラインにおいて異物除去システムを破碎機の前工程に設置することで、これまで様々なトラブルの原因となっていた燃料中に含まれる金属等の異物を取り除き、破碎機およびボイラー内でのトラブル、並びに火災発生リスクを減少。トラブル発生に伴う機会損失、突発的なコストの発生を抑制する効果が見込まれる。

◆前処理能力の増強

異物除去機の前工程に処理能力の高い解砕機を全ラインに設置し、燃料の前処理能力を増強。ボイラーに送り込める燃料の絶対量を増加させることで、発電出力の増加、余裕を持った操業が可能となる。

※同様式の異物除去機を昨年末までに全プラスチック資源開発工場へ設置済み

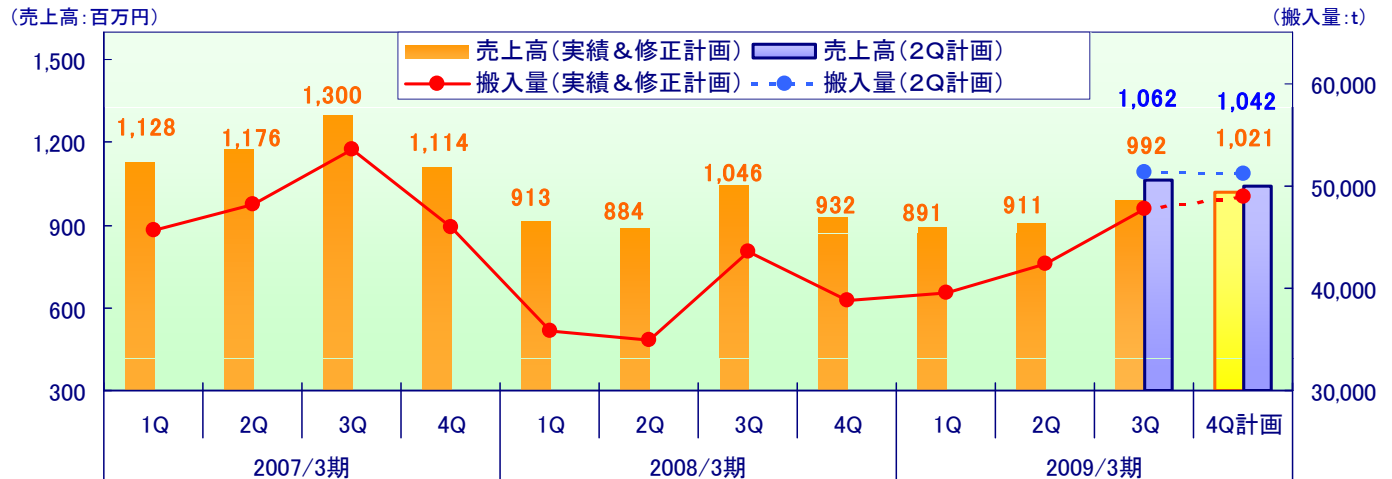


2009年3月期：廃プラスチック加工処理の見通し

◆異物除去装置設置が完了し、搬入量拡大に注力

- ・異物混入プラスチックの取り込みや搬入制限前の過去の取引先回復により、搬入量拡大に努める。
- ・単価は第3四半期と同水準と想定。

■ 廃プラ加工処理売上高・搬入量の四半期推移



<参考:処理単価の推移>

	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q計画
処理単価(実績&修正)	24.7	24.4	24.3	24.2	25.5	25.3	24.0	24.1	22.5	21.5	20.8	20.9
処理単価(2Q計画)											20.7	20.4

(単位:円)

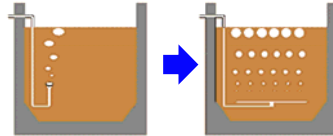
2009年3月期：有機廃液処理の見通し

◆搬入量の減少及び単価下落等による収益性の悪化を回避すべく、下記改善策を検討

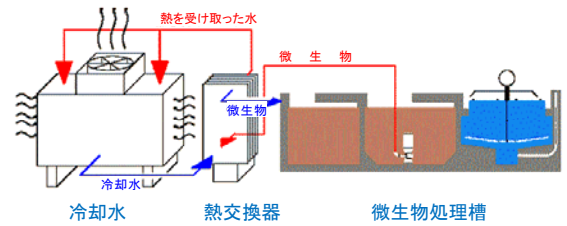
◆◇安定操業への取り組み◆◇



①微生物処理槽を増加させることにより、処理能力の増強と既存微生物への負荷変動を和らげ、安定処理を可能にする。

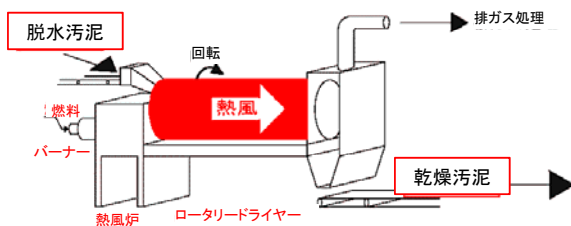


②既存のエアレーション装置(曝気する装置)を酸素溶解率の高いものに変更することにより、微生物の処理能力を向上させる。

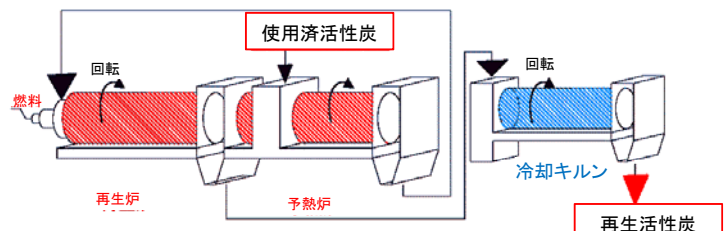


③微生物が、汚濁成分(水中の有機物)を分解する時に発生する余分な熱を、熱交換器を介して冷却水で冷やすことにより、廃液の液温を最適範囲に維持し、安定処理を可能にする。

◆◇コスト削減への取り組み◆◇



④廃液の脱水処理後に発生する脱水污泥を高温熱風により乾燥させ、減量する。

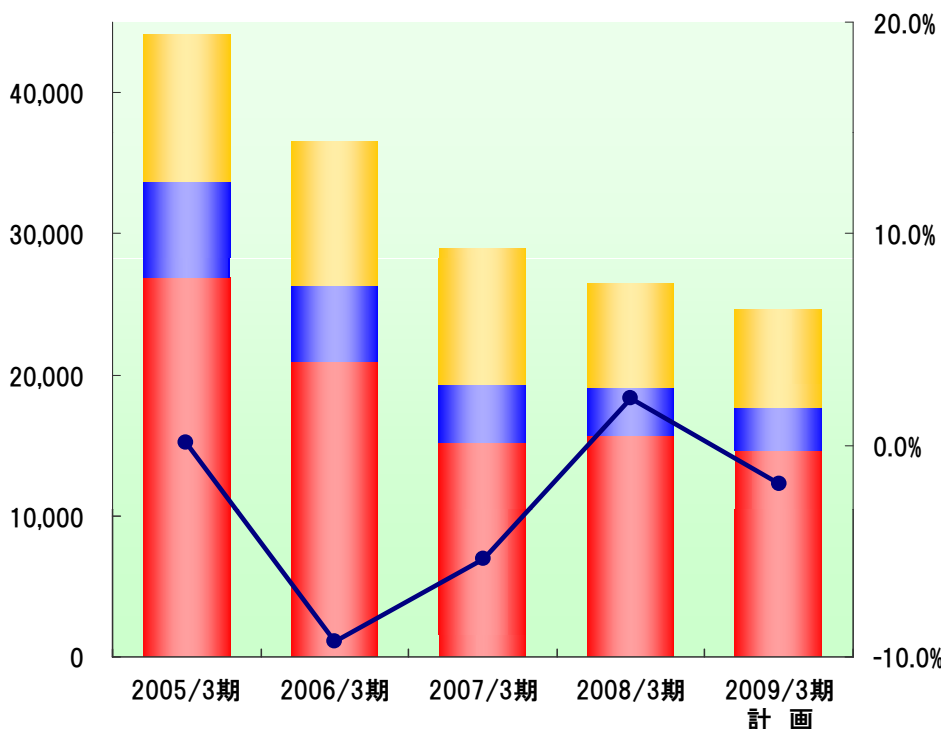


⑤使用済み活性炭に強い熱を与えることで、活性炭に吸着した汚れを分解し、再利用する。

SANIX 21

2009年3月期：インベストメントハイライト

(単位:百万円)



2009年3月期見通し

売上高 25,640百万円

営業利益 Δ 450百万円
(営業利益率 Δ 1.8%)

経常利益 Δ 480百万円

当期純利益 Δ 920百万円

SANIX 22